



昭和村交通指導員の皆さんは、村の人々の大切な命を交通事故から守るために、様々な場面で活動しています。ここでは、交通指導員の日頃の取り組みと想いを紹介します。

特集2

地域の交通安全を支える

群

馬県の中学生や高校生が、自転車通学中に交通事故に遭った割合が全国ワースト1位(民間団体「自転車の安全利用促進委員会」調べ)で、この状況がここ数年続いています。

こうした中、各季節ごとに行われている全国交通安全運動や県民交通安全運動の期間に街頭に立ち、子どもたちの登校時の交通安全を支えているのが交通指導員の皆さんです。

交通指導員の啓発活動

昭和村交通指導員は、村内各地区から選ばれた12人の隊員で構成され、本業とする仕事の傍らで活動しています。交通指導員の皆さんは、多くの人に交通安全の意識を持ってもらうため、隊長のリーダーシップのもと、交通安全に関する様々な啓発活動を行っています。

ボランティアとして、同じく交通安全啓発を行う村安全会とともに交通安全運動の街頭指導を行っているほか、村内各小中学校や保育園での交通安全教室に出席し、子どもたちに指導をしています。

また、火災発生時に現場に緊急出動し、多くの車両の往来で引き起こされる交通混雑を整理誘導したり、村や各地区で道路を規制し

子どもたちの交通安全を支える

学校で交通安全教室

子どもたちが安全に登下校できるように、東小学校(4月19日)、昭和中学校(4月22日)、大河原小学校(4月26日)の各校で、交通指導員と昭和駐在所長を講師に招いた交通安全教室が行われました。

小学校1・2年生は、交差点での安全な横断方法を、小学校3年生は自転車の安全な乗り方や安全確認を学んだほか、昭和中学校1年生は、今年は路上での練習コースを変更し、より実践的な自転車の乗り方を確認しました。各校の児童生徒は、交通指導員から指導を受け真剣に学んでいました。



自転車の実技テスト(東小学校)

交通安全のために一丸となって

村の皆さんが事故に遭うことがないように、村から1件でも交通事故が減るよう日々活動しています。交通指導員は1つのチームですので、みんなで集まって同じ交通安全の目標のもと活動できることは楽しいですね。私は隊長として、歴代の隊員の皆さんが積み上げてきたことや教えていただいたことを、村の交通安全に生かしていきたいと思っています。



昭和村交通指導員
治田 貴典 隊長(大河原)



各季の交通安全運動中の登校時は、村安全会の方々とともに、子どもたちの安全を守る街頭指導を行っています。

交通安全運動で街頭指導

▼このほか、河岸段丘ハーフマラソンや昭和の秋まつりなどの村のイベント、夏祭り神輿の渡御など地域の行事の際にも交通指導・誘導を行っています。



火災発生時など緊急時に出勤し、現場付近の交通混雑の整理誘導を行います。

火災現場付近の交通誘導

夏の県民交通安全運動がもうすぐ始まります

期間 7月11日(日)~20日(火)

高齢者と子どもの交通事故防止、シートベルトの正しい着用、横断歩道における歩行者優先の徹底など「事故を起こさない」「事故に遭わない」ために、交通ルール・マナーを守りましょう。

コロナ禍を経ても変わらず

「新型コロナウイルス感染症の拡大は、交通指導員のみんなの活動にも影響があります」と話すのは治田貴典隊長(大河原)。昨年からのコロナ禍のため、毎年行われていた様々なイベントが自粛となったことは、交通指導の様々なノウハウがうまく引き継がれないまま、隊員が任期を終えて、新隊員に交代せざるを得ないということでもあります。「そうは言っても、コロナ禍以前を知っている隊員が中心となってカバーしていきたい」と治田隊長。その目は常に前を向いています。

▼南小学校と各保育園は、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら実施する予定です。



公道で自転車の練習(昭和中学校)



内輪差の危険性を人形で勉強(大河原小学校)



横断歩道を渡る練習(大河原小学校)